

第4回 県内技術研究発表会（平成20年10月27日）

	論文題名	所 属	氏 名	
1	道路管理者の説明責任とは？ 道路防災工事、災害復旧工事を通して考えたこと	松江県土整備事務所	主幹 佐川竜朗	
2	松江市屋外広告物計画の概要	松江市都市景観課	主幹 金森達央	
3	広報の方法・あり方を検討してみよう	高速道路推進課	主任技師 今川 文	
4	IT 技術が公共事業に与えた影響と 今後の進展予測	技術管理課	主任 石倉英明	○
5	ニホンジカ生息地における治山事業の一考察 島根県弥山山地を事例として	雲南県土整備事務所	主任 安部由尊	
6	五の畑川通常砂防事業 地形的特徴を活かした計画の見直しによる コスト縮減事例	雲南県土整備事務所 仁多土木事業所	主幹 今井 修	
7	市道片句深田線道路整備事業について	松江市土木課	主任 為国岳彦	☆
8	第二浜田ダム建設に伴う環境保全について ブチサンショウウオを守れ	浜田河川総合開発事務所	主任 佐藤啓介	○
9	既設法面崩壊箇所における 小型掘削機械施工の事例	浜田県土整備事務所	主任 今井 研	
10	佐陀川河川災害関連事業による越水対策	松江県土整備事務所	主任 松本雅之	
11	道分山地区災害関連緊急地すべり対策工事 (現在施工中) の途中報告	浜田県土整備事務所	主任 水澄正樹	
12	ドライバーの目から見た 案内標識の整備について	浜田県土整備事務所	主任技師 舩田貴志	☆
13	松江第五大橋道路における航路安全対策の 調整について	高規格道路事務所	主幹 星野充孝	
14	波形鋼板ウェブ橋の施工について	益田県土整備事務所	企画員 尾添光秋	
15	危機管理についての一考察 ～神戸、都賀川に学ぶ～	浜田県土整備事務所	主任 島津慎次	○

○…優秀賞

☆…聴講賞

平成20年度 県内技術研究発表会 日程表及び発表者論文の概要

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 開会 | 9:00 |
| 2. 挨拶 | 9:00～ |
| 3. 発表会における留意事項等 | 9:10～ |
| 4. 研究発表会 | 9:15～ |

発表課題	
1 9:15～	<p>【道路管理者の説明責任とは？～道路防災工事、災害復旧工事を通して考えたこと～】 /Ac 松江県土整備事務所 維持管理部 維持第二G 主幹 佐川竜朗</p> <p>市街地内の高台にある住宅団地と道路路面が近接していた箇所において道路防災工事を行うにあたり住民等への周知を図る必要があったため、測量設計時から住民等との対話を重ねてきた。 そのことによって、合意形成を得ながら結果的に現地に適した形で災害に強い道路とすることができた。 この事例を通して道路防災工事の今後のあり方について発表する。</p>
2 9:40～	<p>【松江市屋外広告物計画の概要】 /一般(環境保全) 松江市 都市計画部 都市景観課 主幹 金森達央</p> <p>昭和24年に屋外広告物法が制定され、都道府県の事務として屋外広告物の規制を条例で定めることができるようになりました。島根県では昭和49年に条例を制定されています。 平成16年に景観法の制定に伴って屋外広告物法の改正が行われ、景観行政団体は県から権限委譲を受け条例を制定することで、独自の屋外広告物行政を行うことができるようになりました。 松江市屋外広告物計画は、景観計画に即して、都市計画法、景観法、建築基準法で定められた地域地区、景観計画重点区域、建築協定地区の規制を踏襲し、また、松江の特性を活かした規制・誘導方針を定めています。 また、この計画に基づいた松江市屋外広告物条例の制定、良好な景観の保全、風致の維持、公衆に対する危害の防止など、屋外広告物行政を推進するための総合的なマスタープランとしています。</p>
3 10:05～	<p>【広報の方法・あり方を検討してみよう】 /Ac 高速道路推進課 高速道調整G 主任技師 今川 文</p> <p>これからの広報の効率的な方法やそのあり方について検討する。</p>
10:30～	休憩:5分
4 10:35～	<p>【IT技術が公共事業に与えた影響と今後の進展予測～e-Japanからu-Japanへ～】 /一般(情報技術) 技術管理課 企画調査G 主任 石倉英明</p> <p>2001年1月政府がe-Japan戦略を発表して以来、地方においても、IT技術を業務の中に取り入れ、様々な施策が実施されました。 本論文では、5年前と現状の比較を通して、IT技術が公共事業に携わる我々にどのように影響(結果)をもたらしたのか、また進化するIT技術が今後我々の業務にどのようにかかわってくると予測されるのかを発表する。</p>
5 11:00～	<p>【ニホンジカ生息地における治山事業の一考察～島根県弥山山地を事例として～】 /一般(治山設計) 雲南県土整備事務所 農林工務部 治山・林道G 主任 安部由尊</p> <p>近年、野生鳥獣の生息域は、狩猟者の減少・高齢化による捕獲圧の低下や、温暖化による積雪量の減少を背景に、拡大の傾向が見られ、それに伴い様々な獣害が発生し人間との軋轢が生じている。 島根県では、唯一のニホンジカの集団生息地である、出雲市の弥山山地において、ニホンジカの保護施策が講じられてきたが、S60年代頃から、農林業とりわけ森林に甚大な被害を及ぼす状況となってきた。 本発表では、被害の軽減とシカの保護という、相反する課題がある、この地域において、実施されてきた、(シカ)獣害対策について紹介するとともに、治山(公共)事業での留意点・有効性について検証する。</p>
6 11:25～	<p>【五の畑川通常砂防事業～地形的特徴を活かした計画の見直しによるコスト縮減事例～】 /一般(コスト縮減) 仁多土木事業所 工務G 主幹 今井 修</p> <p>地形的特徴(右岸部の湾曲形状)を活かした工法へ計画を見直したことにより工事コストの低減を行った。</p>
7 11:50～	<p>【市道片句深田線道路整備事業について】 /一般(道路設計・工事) 松江市 建設部 土木課 主任 為国岳彦</p> <p>市道片句深田線道路整備事業に関する考察。</p>
12:15～	昼食・休憩:45分

8 13:00~	<p>【第二浜田ダム建設に伴う環境保全について～プチサンショウウオを守れ～】／一般(環境保全) 浜田河川総合開発事務所 建設第一G 主任 佐藤啓介</p> <p>浜田川総合開発事業において建設を進めている第二浜田ダムについては、その貯水池の規模から環境影響評価法によるアセス及び鳥根県環境影響評価条例の対象外である。しかしながらダム事業が環境へ与える影響は大きいために、自主アセスにより評価を行い、現地での環境調査を実施した。</p> <p>広範囲にわたる調査の結果、確認されたプチサンショウウオ(成体約10cm)はきれいな水が流れるある特定の沢筋でのみ確認された。その生息箇所はダムによる湛水の影響は受けられないものの、付替林道建設により壊滅的な状況になると専門家の指摘を受けた。</p> <p>このため、不明確である本種の生態情報を詳細に把握することで、土工工事の実施時期を調整し幼生の保護を、また、大規模な盛土構造から橋梁構造へ変更することで、限られた生息環境を保護することとした。</p>
9 13:25~	<p>【既設法面崩壊箇所における小型掘削機械施工の事例】／一般(農道施工) 浜田県土整備事務所 農林工務部 農道整備第二G 主任 今井 研</p> <p>農道工事の施工中に法面上段部で崩壊が発生した。</p> <p>崩壊は、現道から約40mの高さで発生したため、「①施工位置までの進入方法」と「②崩壊土砂掘削・小運搬・現場内処理の施工方法」が問題となった。</p> <p>工法の比較検討の結果、施工位置までの進入が可能であり、施工性及び安全性において「人力施工」より優れている「無線操作による小型掘削機械施工(セーフティークライマー工法)」を採用し、施工した。</p> <p>本発表では、工法の比較と小型掘削機械の施工内容を中心に、崩壊発生から施工完了までの状況について報告する。</p>
10 13:50~	<p>【佐陀川河川災害関連事業による越水対策】／一般(越水対策) 松江県土整備事務所 土木工務部 河川港湾G 主任 松本雅之</p> <p>佐陀川ではH18.7豪雨により越水被害が発生し、水田をはじめとして380haが冠水する被害が発生した。</p> <p>この被害を解消するため、再度災害防止対策として「越水させない原型復旧」に加え、佐陀川の改修計画を考慮した「災害関連事業」による改良復旧を導入することにより、佐陀川の改修計画における位置で堤防の嵩上げを実施し、越水対策を実施することとした。</p> <p>この事業の完了により、H18.7豪雨と同規模の出水が発生した場合においても佐陀川からの越水被害は解消されることとなった。</p>
11 14:15~	<p>【道分山地区災害関連緊急地すべり対策工事(現在施工中)の途中報告】／一般(地すべり) 浜田県土整備事務所 土木工務部 河港砂防第一G 主任 水澄正樹</p> <p>浜田市黒川町地内の地すべり防止区域「道分山地区」内の自然斜面において地すべりの兆候が確認されたことから、災害関連緊急地すべり対策事業の採択を国から受け、現在対策工事を施工中である。</p> <p>この工事について、調査から現在に至るまでの経緯や対策工法、課題等について報告を行うものである。</p>
14:40~	休憩:10分
12 14:50~	<p>【ドライバーの目から見た案内標識の整備について】／Ac 浜田県土整備事務所 農林工務部 農道整備第一G 主任技師 榎田貴志</p> <p>今年10月に那賀西部広域農道が浜田市金城町の国道186号から旭IC間で全線開通することから、関連する標識整備を行うこととしていた。</p> <p>しかし、この地域において旭ICに隣接する島根あさひ社会復帰促進センターも10月に開所し、浜田圏域の業者が食材供給を担うことや施設への多くの来訪者が見込まれ車の流れが大きく変わることが予想される。</p> <p>また、H19に本格運用された金城スマートICの標識が西日本高速道路(株)より示されたことからこの地域の標識の連続性、整合性を考慮した広域的な見直しを各道路管理者間で調整することが急務となった。</p> <p>そこで、道づくり調整会議を活用し、各道路管理者が集まってワーキンググループをたちあげ、国県道・農林道・市道を含めて「ドライバーの目から見たより良い道路案内標識の整備」を検討したので、その調整過程から今後の課題について報告する。</p>
13 15:15~	<p>【松江第五大橋道路における航路安全対策の調整について】／Ac 高規格道路事務所 工務部 第五大橋第一G 主幹 星野充孝</p> <p>松江第五大橋道路の新設にあたり、河川内に橋脚1基を施工する大橋川については、松江港の航路にも指定されており、平成19年度から施工中の各段階および、橋梁完成後の航路安全対策について、事業者及び、関係機関、航路利用者の三者間での最終調整に入った。当初調整は順調に進んでいたが、途中参加の一部航路利用者からの強い異議が出され、平成20年秋の現地工事着手にも影響を与えかねない状況となった。</p> <p>本論文では、その後、平成20年4月から約3ヶ月間に実施した調整方法や安全対策等の見直しを含めた再調整状況と、その成果概要について報告する。</p>
14 15:40~	<p>【波形鋼板ウェブ橋の施工について】／一般(橋梁施工) 益田県土整備事務所 農林工務部 農道・防災G 企画員 尾添光秋</p> <p>近年施工実績を増やしてきている波形鋼板ウェブ橋について、石見西部2期広域営農団地農道整備事業で採用し施工しているので、その状況を報告する。</p> <p>また、本工事は総合評価方式のため技術提案の紹介、及び、工事現場の広報活動についても併せて報告する。</p>
15 16:05~	<p>【危機管理についての一考察～神戸 都賀川に学ぶ～】／Ac 浜田県土整備事務所 土木工務部 河川砂防第二G 主任 島津慎次</p> <p>平成20年7月に発生した神戸市の都賀川(とががわ)における出水事故を例にとり、「洪水以下の出水時の人的被害防止」という新たな視点での危機管理について、本県において同様の事故を防ぐために何が出来るのか考察した。</p>

5. 意見・情報交換／表彰選考 16:30~16:50

6. 講評及び表彰 16:50~

7. 閉会 17:15